認定看護師教育センター開講式を挙行

昭和大学認定看護師教育センター開講式が10月5日、上條記念館で挙行された。

同センターは、質の高い医療を提供するマネジメント能力を有した看護師を育成し、国民の健康と安寧に貢献できる高度な看護実践者である認定看護師として社会に送りだすことを目的としている。

久光正学長は告辞で「認定看護師教育センターで所定のコースを習得し、至誠一貫の精神を身につけ、再び現場で素晴らしい看護ができるよう成長することを期待しています」と述べた。

告辞を述べる久光正学長

第1期生となる今年度は手術看護分野が12名、透析看護分野が8名の計20名が入学し、約6か月の受講期間を通して認定看護師に必要な知識・技能を学んでいく。

昭和大学大学院秋季入学式を挙行

令和2年度昭和大学大学院秋季入学式が10月6日、上條記念館で挙行された。

今年度は医学研究科8名、歯学研究科1名、薬学研究科5名、保健医療学研究科の博士前期課程3名、同後期課程4名が入学した。今年度は新型コロナウイルスに、その研究内容を審議して授与される。

前田准教授は「Antimicrobial stewardship programのアウトカム評価およびベンチマークの確立に関する研究」が高く評価され同賞に選ばれた。

前田真之准教授のコメント

このたび、２０２０年度日本薬学会関東支部奨励賞を受賞いたしました。日本薬学会関東支部は会員数が７,０００名を超える大きな学術団体であり、その中から選考されたことは大変栄誉なことと感じております。また、同賞の臨床薬学分野での受賞は初であり、当研究室の大きな特徴である臨床研究の業績を評価いただけたことは幸甚の至りです。研究のご指導・ご支援を賜りました学内外の多くの共同研究者ならびに、同賞へのご推薦を賜りました中村明弘薬学部長にこの場をお借りして深謝申し上げます。

近年、薬剤耐性菌による感染症の世界的な広がりは深刻な問題となっています。さらに、新型コロナウイルス感染症のような新興・再興感染症の危機にもさらされています。一方で、新規の感染症治療薬の開発は停滞しており、既存の薬剤の適正使用が求められています。私は抗菌薬適正使用の効果的な進め方やその指標の確立に取り組んでまいりました。本研究を通じて、今後も医療ならびに本学の発展に貢献していきたいと存じます。

前田真之准教授が奨励賞を受賞

― 第64回日本薬学会関東支部大会 ―

前田真之准教授（薬学部臨床薬学講座感染制御薬学部門）が、第64回日本薬学会関東支部大会（9月19日、WEB開催）で、２０２０年度日本薬学会関東支部奨励賞を受賞した。

同学会は約１４０年の歴史と会員数１７,０００人を擁する薬学における中核的学術団体で、その中で関東支部は全国で8つある薬学会支部のうち最大の支部である。

前田准教授が受賞した同賞は、同学会員のうち基礎薬学または医療薬学（臨床薬学を含む）に関する優れた研究業績をあげた者を対象に、その研究内容を審議して授与される。

前田准教授は「Antimicrobial stewardship programのアウトカム評価およびベンチマークの確立に関する研究」が高く評価され同賞に選ばれた。

前田真之准教授のコメント

このたび、２０２０年度日本薬学会関東支部奨励賞を受賞いたしました。日本薬学会関東支部は会員数が７,０００名を超える大きな学術団体であり、その中から選考されたことは大変栄誉なことと感じております。また、同賞の臨床薬学分野での受賞は初であり、当研究室の大きな特徴である臨床研究の業績を評価いただけたことは幸甚の至りです。研究のご指導・ご支援を賜りました学内外の多くの共同研究者ならびに、同賞へのご推薦を賜りました中村明弘薬学部長にこの場をお借りして深謝申し上げます。

近年、薬剤耐性菌による感染症の世界的な広がりは深刻な問題となっています。さらに、新型コロナウイルス感染症のような新興・再興感染症の危機にもさらされています。一方で、新規の感染症治療薬の開発は停滞しており、既存の薬剤の適正使用が求められています。私は抗菌薬適正使用の効果的な進め方やその指標の確立に取り組んでまいりました。本研究を通じて、今後も医療ならびに本学の発展に貢献していきたいと存じます。

石川紘司講師が助成事業に採択

― 藤田記念医学研究振興基金助成事業 ―

石川紘司講師（医学部整形外科学講座）が、日本学術振興会の２０２０年度藤田記念医学研究振興基金助成事業に採択された。

同助成事業は医学分野のうち若手研究者に対し、主として外科系医学における研究を助成する目的で、１９８８年度から実施している。同助成事業への申請科目は6分野に分かれており、整形外科学関連で採択されたのは石川講師の研究課題のみであった。

石川紘司講師のコメント

私の研究課題「脱落乳歯由来幹細胞を用いた細胞治療：整形手術における、骨癒合能に及ぼす影響解明」は、骨折や脊椎疾患の手術において「骨癒合」を促進させ、病変部の安定化を図ることを目的としたものです。

歯髄幹細胞とは、歯の内部にある「歯髄」から採取される幹細胞で、骨・軟骨・神経細胞に分化しやすい特徴を持ちます。子供の脱落歯より採取可能で、ドナーの負担が少ないことも大きな強みです。

現在、マウスを用いた基礎研究を基盤として、「子供の細胞から、高齢者の骨癒合を助ける治療」の実用化を目指し、谷聡二先生（大学院研究補助員）・戸渡智子さん（研究補助員）を中心に精力的に研究を行っております。（株式会社：ジーンテクノサイエンスとの産学提携契約事業）

末筆になりますが、採択に辺り、普段より整形外科学講座の稲垣克記教授・薬理科学研究センターの木内祐二教授、高見正道教授・整形外科学講座の素晴らしい先輩方や同期、後輩並びにスタッフの皆さまに改めて感謝申し上げます。

カタログギフト
手配いたします
旅行
食事券
体験型
スイーツ
和牛専門
など
のし・包装も
お任せ
昭友商事株式会社
3784-8280

歯科補綴学講座から2名受賞

― 日本補綴歯科学会第129回学術大会 ―

（左）楠本友里子助教、（右）岩内洋太郎助教

岩内洋太郎助教と楠本友里子助教（ともに歯学部歯科補綴学講座）が、日本補綴歯科学会第129回学術大会（WEB開催）にて課題口演優秀賞と課題口演賞をそれぞれ受賞した。

同学会は、顎口腔領域における形態と機能の異常を改善、回復し、もって国民の健康福祉の向上に貢献することを目的に１９３３年に発足し、6,０００名以上の会員を有している。

岩内助教は演題「in vivoにおけるデジタル印象法と従来法の顎間関係再現精度についての比較検討」が課題口演分野1「Smart prosthodontics」で高く評価され課題口演優秀賞を受賞した。楠本助教は演題「無歯顎患者におけるインプラント補綴治療法の違いが口腔関連QoLに及ぼす影響」が課題口演分野2「臨床エビデンス」で高く評価され課題口演賞を受賞した。

岩内洋太郎助教のコメント

この度日本補綴歯科学会第129回学術大会におきまして、光栄なことに課題口演優秀賞に選出していただきました。日本補綴歯科学会は歴史も長く、私の父も専門医として所属する学会であり、そのような思い入れの深い学会で受賞出来た事を大変嬉しく思います。

私が所属する歯科補綴学講座は、未だ皆様には馴染みが薄いのですが、口腔内スキャナーを使用して日々の臨床と研究を行っております。その中で咬み合わせを記録する手順があるのですが、その精度にフォーカスして検証し、今まで利用されている石膏模型を使った方法と比較して優れる結果を報告しました。本研究の成果を発表させていただく機会を与えてくださった馬場一美教授、田中晋平講師をはじめ、デジタルチームの皆様に厚く御礼申し上げます。

楠本友里子助教のコメント

近年、„患者さんの視点からみた医療評価“が注目されており、歯科においてはこの口腔関連QoLを指標として、上下無歯顎患者さんを対象に、固定性インプラント補綴装置（固定性）とインプラントオーバーデンチャー（可撤性）について比較検討を行いました。その結果、全般に両者は近似した口腔関連QoLが得られましたが、咀嚼に関しては固定性の方が優れていることが明らかとなりました。本研究結果は、低侵襲の治療が求められる超高齢社会において、治療法を検討する際に大きな示唆を与えるものと考えております。

最後に、本研究の遂行にあたり、御指導を賜りました馬場一美教授をはじめ、多大なる御助言や御協力を賜りました諸先生方に厚く御礼申し上げます。

昭和大学大学院秋季入学式を挙行

感染防止のため、必要な措置を講じたうえで大学院生および一部の教育職員のみで執り行われた。

久光正学長は告辞で「皆さんには大きな目標が2つあります。1つは新しい発見をして論文を書くことで、もう1つは大学院を修了した後は後輩の指導にあたることです。限られた期間ではありますが、精一杯努力して素晴らしい結果を得て、後輩を育てるという新たな仕事に就いてください」と述べた。

各研究科長からの挨拶では、研究の進め方等についてのアドバイスがあった。

告辞を述べる久光正学長